
仮面ライダーworld！

辰巳 翔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーworld！

【Nコード】

N7392V

【作者名】

辰巳 翔

【あらすじ】

平成ライダーの全世界が融合！平和すぎる世界とは、このことなのだろうか！？って、怪人もライダーも仲良いな！？突っ込みどころ満載、ギャグ満載！圧倒的にツッコミ不足だが気にしない！そんな力オス小説！

ギャグなので、一部設定？何それ美味しいの？状態になるところもあれば、キャラ崩壊もあります。

1話『SとKはツッコミノ明日ニパンツ!?』(前書き)

シンジ「……本当に始めやがったよ、作者」

ショウイチ「まさか本当にやるなんてな……」

カズマ「いや、だって書いてたんだもん。もうやる気満々だったんじゃない?」

ユウスケ「誰が何と言ってもね」

ソウジ「元気出せてショウイチ」

ショウイチ「お前のせいだろほとんど!」

タクミ「1話、始まりますよー」

士「お前が言うんかい!?!」

1話『SとKはツッコミノ明日ニパンツ!?』

世界は無数にあり、ディケイドではそれが融合するとかどうのこうのと。

まあそれは置いておき、この世界には色んなライダー、怪人が住んでいるのでーす。

つまり、全世界が融合してしまったのでーす。カオスなのでーす。

b y・カズマ

ショウイチ「って、カズマが言ってるのかよ!?!」

カズマ「ですよー。頼まれたので」

シンジ「変なこと話さないで、二人とも」

説明しなくても分かる通り、リイマジアギト、ブレイド、龍騎の3人、“芦河ショウイチ”、“剣立カズマ”、“辰巳シンジ”だ。なんで一緒にいるかというと……

ショウイチ「…で、なんでお前らは人の家に勝手に入ってきてるんだ?」

ショウイチの家にシンジとカズマが勝手に入ってきたためだった。

シンジ「いや、今日オリジリマジ関係なくプールに行く約束してたじゃないですか」

カズマ「約束守ってくださいよー」

勝手に麦茶を飲みながら理由を話す二人。だがショウイチは…

シヨウイチ「行かない」

シンジ「じゃあはやく…って、え？」

カズマ「行かないんですか!？」

シヨウイチ「…行かない」

シンジ「いや、ちょ…」

シヨウイチ「行かない」

カズマ「いや、だから…」

シヨウイチ「い・か・な・い」

意地でも行かない気だこの人…

そう思うシンジとカズマ。もうほとんどの人が行っていて、残るはこの3人と天堂屋の“天堂ソウジ”だけだ。

…ソウジはどこにいるかって？

ソウジ「ないでいかないんだー？」

…台所にいました。

シヨウイチ「人の台所で何やつとるんじゃ貴様はああ!？」

ソウジ「別にいいだろー。同居中だしー」

シヨウイチ「俺は認めた覚えはない!」

そう。この二人はいろいろあって同居中なのだ。…そう。本当にいろいろあって…

ソウジ「作者がノートで下書きしてるオースの小説では、同居してるからいいだろ。…お前も認めてたし」

シヨウイチ「いや、そうだけど…!」

カズマ「俺たちにしかわからない話しないでください」

シンジ「メタ発言しないでください」

メタいこと言ってる二人はさておき、

ソウジ「さて、そろそろ行くか」

カズマ「はい」

シンジ「はいショウイチさんこれ持って」

シンジはショウイチに予め準備しておいた荷物を渡す。…反射的に受け取ってしまう、それが人間だ。

ショウイチ「ってまてまて。俺は行かないって言ったはずだぞ？」

シンジ「いやいや、保護者が来ないってダメでしょ」

ショウイチ「…いつからお前らの保護者になった？」

シンジ「リイマジ最年長って時点で保護者でしょ」

ショウイチ「……暑いところでただ座ってるだけじゃねえか!？」

シンジ「文句言わないください!オリジナルや他のリイマジ待たせてるんでさっさと行きますよ!」

ソウジ「あと一人来るから、早く準備していくぞー」

ショウイチの腕を掴んで外に連れて行こうとするシンジ。それよりも、ソウジの一言にショウイチはツツコミたかった。

ショウイチ「もう一人？」

カズマ「言ったじゃないですか!。映司もくるって」

…映司?って誰だっけ…

ショウイチは一瞬そう思ったが、すぐに思い出す。

ショウイチ「映司…あ!あのときにナイスガードしたやつか」

ソウジ「そうそう。ナイスガードした人」

シヨウイチ「しかし……なんでいきなり勝負しようと思った？」

カズマ「あ、あはははは……」

シンジ「いや、ちょっと……」

ここでその日のことを振り返ってみよう。

数日前… ショウイチとソウジは、買い物が終わった後、突然ある人物二人に襲われた。ある人物、とは…

龍騎「しょーいちさん！」

ブレイド「そーじさん！」

龍騎・ブレイド「勝負だー！」

「シヨウイチ、っておいこら！ 変身してない相手に殴り掛かるか普通！？」

ソウジ「おっと」

…辰巳シンジと剣立カズマだ。二人からの攻撃を、ソウジとシヨウイチの二人は荷物を持ちながらも、バックステップやしゃがんだり、横っ飛びなどで華麗に避けていく。

……周りの人たち？

「もう慣れっこのです。」「またか……」「飽きないなこの人たち……」的
な視線で4人を見てます。

「シヨウイチ、おい、こら、ちよ……話をきけええええ！？」

龍騎「じゃあ勝負してください！」

ソウジ「なんでしたがるんだ？」

ブレイド「月に一回してるじゃないですか！」

ショウイチ「いや、もうやっただろ！？」

龍騎「何回やつてもいいじゃないですかああ！」

ブレイド「そうだそうだー！」

ぎゃーぎゃー叫びながらドラグセイバーとブレイラウザーを振り回す。

さすがに危ないと思ったか、やっと二人は変身する。

ショウイチ「はあ…変身」

ソウジ「変身」

龍騎「よっしゃいくぞー！」

ブレイド「おー！」

その時ちょうど、4人が戦ってる公園の前を通って行くところする一人の青年がいた。

「ここは始めてくるなあ…」

そう言いながら少しずつ前に進んでいく青年。

しかし、彼は知らなかった。4人が戦っているときに近くを通ると、必ず巻き込まれることを……

<ストライクベント>

龍騎「はっ！」

カブト「ほっ」↑簡単に避ける

龍騎「あー！カズマよけてえええ！」

ブレイド「え!?!…っ てぎやあああ!?!」

慌てて横に転がり回避する。……が、その直後アギトから殴られた。

アギト「避けるなメタルをつかええええ！？」

「ブレイド」「ぎゅっす!？」

カブト「3人と、あれ……」

カブト（ソウジ）が指さす方には、

——今まさに通るところだった青年に向かっていった。

龍騎・ブレイド「ぎゃああああ!？」

「アギト、その男ー！今すぐ全力で逃げろー！」

「俺ですか？…っつて、ええええええ！？」

立ち止まって答える青年。そして目の前には炎が……

「燃えるううう！？」

そう叫びながら――近くにいた鳴滝を盾にしていた。

鳴滝「ぐあああああ！」

盾にした張本人は…

「ふう……危なかった」

シヨウイチ「お見事」

シンジ「褒めることですかあれ!？」

ソウジ「でもナルタコだしなあ…」

カズマ「タコじゃないです、鳴滝です!」

変身をといた4人は、とりあえず青年のもとへむかい、――謝った。
もちろん、鳴滝は無視して。

そのあと、青年の名前は火野映司、とのこと。いろんなところを旅
していて、今日ここに来たばかりだとか。

気が合ったシンジとカズマ（同居中）は、家がないならうちへ来な
いか?と誘ってみたところ…

「明日のパンツと少しの小銭があれば、大丈夫ですって」

つと、返事が返ってきた…。

シンジ「今思えば、映司ってすごかったね」

カズマ「だね。あれってとっさの判断だよ。鳴滝を盾にするって」

ショウイチ「ああ。…だが、元々はお前らのせいだからな?」

シンカズ「すいませんでした」

そついう感じに振り返っていると…

――ピンポン

カズマ「あ、来たんじゃないですか?」

シンジ「そろったね――」

ソウジ「じゃあ行くか」

シンカズ「おー！」

シヨウイチ「って俺の意見は！？俺の意見はどうなったあああああ
！？」

抵抗も空しく、結局シヨウイチはついて行くことになった。

―外―

玄関を開けると、青年―火野映司が立っていた。

映司「おはようございます！」

カズマ「おはよー！」

シンジ「はよー！」

ソウジ「おはよう。映司君」

シヨウイチ「…おはよう」

それぞれ挨拶をするが、明らかに元氣のないシヨウイチ。映司は心配になって聞いてみたが…

シヨウイチ「今は何も聞かないでくれ…」

と言われたため、深くは聞かなかった。

ソウジ「じゃあ今度こそいくぞー」

カズマ「いえーい！シンジ何して遊ぶー？」

シンジ「なにしょーっかー。…ビーチバレー？」

シヨウイチ「いやプールですることじゃないだろー？」

わいわい楽しくプール場にむかったとか。

1話『SとKはツツコミノ明日ニパンツ!?』(後書き)

ユウスケ「それじゃあ始めよっか」

カズマ「いえーす」

ユウカズ「ライダーworld、Q&Aー!」

ショウイチ「何始めてんだこらああ!?」

ユウスケ「後書きでは、ライダーworldに関する質問、言っ

ほしいセリフなどを募集してまーす!

カズマ「何回でもいいですよー!じゃんじゃんくださーい!」

シンジ「無視すんなああああ!」

ソウジ「……次回もお楽しみに!」

ショウイチ「最初の妙な間はなんだ妙な間は!?!」

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7392v/>

仮面ライダーworld！

2011年10月7日07時48分発行